

(報告時提出)

データファイルで提出

◆ 令和5年度 活動報告シート ◆

団体名： あさか環境市民会議

(助成番号 26A-32)

代表者：会長 松永健司

URL : <https://asaka-kankyo.1web.jp/outline.html>

1. 活動が必要とされた状況

朝霞市は武蔵野台地の端に位置し、市の北西部は新河岸川、荒川が流れる荒川低地。市の中心を黒目川が武蔵野台地を深く削り南東部から新河岸川に流れ、新河岸川に合流します。武蔵野台地の雑木林と川の恵みのある豊かな土地です。

急速な宅地開発が進み、1970年代から2000年にかけて人口は倍増の10万人を超えました。その頃、市内にある林を残す活動が盛んになりました。残された雑木林は主に武蔵野台地の崖にあり、湧水もある場所です。生活環境の変化で放置された斜面林は竹や笹等で暗く荒れていました。当会は2002年に設立され、特別保全緑地に指定された3カ所の斜面林で活動しています。竹林間引きや下草刈りを定期的に行わないと森が荒れてしまいます。

2. 活動の内容(実施時期、参加人数、活動内容など)

3カ所の斜面林で活動しています。およそ1.5㍍の広さになります。

参加人数は毎回10~16人、今年度は昨年4月から今年1月までで延べ315人が参加しました。

竹林の間伐採、笹や下草刈りから始まり、里山の再生を行っています。竹の伐採はもちろんですが、ケヤキやアカメガシワ、ムクの木から草やシュロまで毎月しっかりと手入れしないとあっという間に先が見通せなく有様です。



3. 活動の成果



活動により明るく手入れされた雑木林は近所の方々の散歩や憩いの場として利用され感謝のお言葉を頂いています。他2カ所の斜面林においては、湧水の池があり安全面の配慮から通常の立入は制限されていますが、春の野草観察会では街中からは消えてしまった希少植物を鑑賞、秋のモミジ鑑賞会を行い会員以外の参加者から感嘆の声と好評を得ています。

タケノコ駆除作業が竹林整備と自然の恵み享受、それに感銘した新規会員入会と1石3鳥になっています。

4. 今後に残された課題

3点挙げます。

① 斜面林の遷移、木が大きくなり様々な問題が起きている。

ナラ枯れの問題。植物相の変化。今後はナラガレ伐採で林床が明るくなりさらなる変化を注視して行きます。

② 隣接地の宅地化

上記問題と似ているが、隣接して新築住宅が建ち、日照や風通し、落ち葉問題の発生。声掛けや挨拶などを行っています。今後はより積極的な地域交流が解決策か？模索中です。

③ 会員の高齢化退会と新規会員の微増。

会員の減少により森の生育や変化に活動が追いついていない。観察会や勉強会に注力をして会員増大の改善策になるか？思案中。

2回目以降の助成申請の助成決定審査資料となります。

(報告時提出)

データファイルで提出

2回目以降の助成申請の助成決定審査資料となります。